

概 要
第 33 回 市民と市長の対話ひろば ～もりりと語ろう、宝塚市の未来～ テーマ：2050 年の宝塚～環境から考える私たちの未来～
日時：令和 8 年 8 月 7 日（金） 午後 2 時～午後 3 時 50 分 場所：中央公民館 ホール 参加者：13 名 出席者：森市長 環境部 岡田部長 他
《市長のテーマ説明》 1. 趣旨 ・猛暑の続く夏休み期間に環境問題を扱いたいという思いから実施。高校生・大学生が参加する回も予定している。 ・2050 年のゼロカーボンを見据えた中長期的な視点で議論を行う。 2. 地球温暖化とゼロカーボン（気候変動の現状と対策） ・神戸の観測所で昨年（2025 年）の平均気温が過去最高（28℃）を記録。ヨーロッパの熱波や、国内各地で 40℃を超える猛暑が日常化。地球の平均気温はここ 100 年で 1℃上昇しており、生態系に大きな影響を及ぼしている。 ・地球温暖化の主因は温室効果ガス（そのうち 75%が二酸化炭素）。何も対策をしなければ、2100 年までに世界の平均気温は 4℃上昇する予測。 ・世界では、資料の写真のとおり、アスファルトの融解、海面上昇の恐れ、山火事の増加、農作物の品質低下が見られ、動植物・人間の生活への深刻な打撃を受ける。 ・パリ協定（2015 年）で産業革命前からの気温上昇を 1.5℃に抑える合意。 ・2050 年までに排出量と吸収量の収支をゼロにする目標であるゼロカーボン（カーボンニュートラル）を日本や宝塚市も掲げる。 ・宝塚市は国や県と異なり、産業（工場）が少なく住宅都市であるため、温室効果ガス排出の多くを家庭部門が占めている。 3. 生物多様性とネイチャーポジティブ（自然環境の保全） ・生き物同士のつながりや健全な自然生態系（水、空気、食料）によって人間は生かされているが、過去 50 年間で野生動物の個体数が 70%減少するなど、生態系が乱れている。 ・宝塚市域の 65%が森林（その 85%が人の生活に近い二次林）。武庫川溪谷や西谷地域のため池、丸山湿原、北雲雀きずきの森など貴重な自然や動植物が存在する。 ・一方で、外来種（オオキンケイギクやクビアカツヤカミキリなど）の侵入による在来種の駆逐や桜・梅の枯死の恐れが課題となっている。 ・ネイチャーポジティブは失われた自然を回復軌道に乗せ、2030 年までに自然の損失を食い止めて V 字回復させ、2050 年までに生態系を完全に回復させる世界目標。宝塚市でも自然共生サイトの認定増や啓発活動を通じて取り組んでいる。

4. 市民一人ひとりの自分ごととしての取り組み

- ・他人への強制ではなく、各自が自分ごととして捉えることが重要。
- ・太陽光パネルの設置や断熱性の強化による省エネ。エコバッグの利用、自動車を控えて自転車や徒歩を利用する生活。ゴミの持ち帰りなど、身近なところから環境負荷を減らす。

5. 宝塚市の主な環境施策

- ・脱炭素に向けた支援、取り組みとして、宝塚市地域脱炭素移行・再エネ推進助成金（太陽光パネル設置などの補助）。事業者向け脱炭素経営セミナーの開催、小学校4年生へのエコライフノートの配布による啓発。公共施設の電力調達におけるリバースオークション（再生可能エネルギーの活用推進）の導入を行っている。
- ・生物多様性の保全施策として、自然共生サイトへの登録推進。ホテルの鑑賞会や水辺の生き物体験など、子どもたちが自然に親しむ機会の提供をしている。

6. まとめ

- ・財政難の状況下であっても、環境問題は未来の世代のために非常に重要な課題である。完璧を求めるのではなく、日常生活の中でできる工夫や新しいアイデアを、参加者の皆さんと一緒に知恵を出し合って考えていきたい。

《対話》

1 参加者【兵庫県の財政状況と市への影響について】

- ・自然保護や生態系保護は大切であり、無理のない範囲で取り組んでいきたい。一方で何をするにも資金が必要であり、兵庫県が早期健全化団体に移行するとの噂もある中、公共事業の淘汰などが懸念される。兵庫県の状況について市長はどのように考えているのか。

➡市長

- ・環境保護や宝塚市の運営においても資金は重要であり、兵庫県の財政状況やその影響には強い関心を持っている。現時点で県から具体的な財政再建の方針などは伝わってきていないが、宝塚市に影響を及ぼす事項については、一方的に従うのではなく、情報を共有し合いながら協議・対応していく方針である。

2 参加者【家庭・事業者ごみの削減と今後の方向性について】

- ・グラフにもあった通り、宝塚市は工場などの大きな産業がないため、市民（家庭）からのごみの排出割合が多いのではないかと。
- ・将来的にごみを削減するため、現在決まっている方向性や、今後進めたい活動の方向性があれば教えてほしい。

➡市長

- ・高齢化などの影響や、市民の皆さんの工夫によって家庭ごみは減少傾向にある。一方で事業者ごみがあまり減っていないため、現在はそこをどうしていくかが検討課題となっている。
- ・事業者に対して指定ごみ袋などを活用してごみへの意識を高めてもらうことなどが、アイデアの一つとして挙がっている。

3 参加者【家庭ごみ削減に向けた有料化の提案と処理方法について】

- ・家庭ごみは減っているとのことだが、まだ不十分である。市民が自分ごととして考えるために、ごみ収集の有料化（指定ごみ袋制など）は効果的な切り口だと考える。
- ・現在の市民生活の切迫を考慮し、初年度は前年比 90%分、翌年は 80%分のごみ袋を無料配布し、それ以上出す場合のみ有料とするなど、減量した人に負担がかからない形での有料化を提案したい。
- ・自宅では雑草や枝葉をコンポストで堆肥化しているが、多くの人はプラスチック袋に入れて捨てている。一定の条件（敷地面積など）を設けた上で、植物由来のものの家庭内での処理（焚き火など）を許容し、ごみ収集車の稼働を減らす工夫をしてはどうか。

➡市長

- ・家庭ごみは減少傾向にあるが、施設寿命の延伸や財政・環境面からもさらなる削減が必要であるとの認識は一致している。
- ・現在、家庭ごみにおける生ごみの割合や負担が大きいことが課題である。フードロスの削減や、コンポスト、生ごみ処理機（ダンボールコンポストなど）の普及からまずは取り組んでいきたい。
- ・焚き火などについては、近隣トラブルや火災の懸念もある。また、コンポストや市のみどりのリサイクルセンター（剪定枝のチップ化）などを活用していく。
- ・総量削減については、まずは減少しにくい事業者ごみの対策を優先し、家庭ごみについては生ごみ対策などを進めながら、有料化等も含めて検討していく。

➡担当部

- ・現時点では有料化の検討には至っていないが、今後のさらなる減量に向けて、啓発だけでなくルールの厳格化や有料化の必要性も認識している。

4 参加者【南海トラフ地震の被害予測と市の防災対策について】

- ・地球温暖化やネイチャーポジティブの対策も重要だが、それ以上に心配なのは、今後 30 年以内に高い確率で発生するとされる南海トラフ地震である。
- ・南海トラフ地震が起きた場合、阪神地区などで多くの死者が想定されるが、宝塚市ではどの程度の死者数が想定され、どのような対策を考えているのか。

➡市長

- ・宝塚市における南海トラフ地震等の推定死亡者数は一桁台である。大阪府や兵庫県内には大きな被害が想定される地域もあるが、宝塚市は比較的標高が高いところにあるため、被害が少ない地域のひとつとなっている。
- ・地震への備えだけでなく、近年の気候変動による急な豪雨や土砂崩れなどの災害対策も含め、総合防災課を中心に様々な対策を進めている。
- ・最近の災害では在宅避難が多くなる傾向や、宝塚市が助けられる側と助ける側の双方になり得る中等度の被害（中間的な災害）への対応も検討している。
- ・災害対策に終わりはなく万全を期すことは難しいが、引き続き対策を進めている。

5 参加者【脱炭素を活かした街の魅力創出（ブランド化・移住促進）について】

- ・京都の亀岡市などのように、脱炭素の取り組みが結果的に町おこしや移住者の促進、ブランド化といった副産物（街の魅力創出）につながっている事例がある。

・宝塚市でも、20年・30年先の長いスパンを見据えたとき、脱炭素などの取り組みを街の魅力創出につなげていくのはどうか。市長の個人的な考えを聞かせてほしい。

➡市長

・個人としても、脱炭素などを通じた街の魅力創出やブランド化は非常に素敵な話であり、そうなればいいと考えている。宝塚市には阪神間の一角という側面と、豊かな山岳部・里山という側面があり、適性がある。

・街おこしとして進めるには、市民の皆さんの間に一定の賛成やコンセンサスがあることが必要である。反対意見が多い中で強行するのは難しいため、今日の対話集会などを通じて市民がどのように考えているのかを知りたい。

・市だけで決めて進めるものではなく、市民の意識や、宝塚市に興味を持ってくれる市外の関係人口の視点も踏まえながら取り組んでいきたいと考えているため、ぜひ知恵を貸してほしい。

6 参加者【宝塚市の環境マネジメントシステムおよび環境取り組みの公開・運用方法について】

・宝塚市の環境マネジメントシステムのホームページで、令和4年以降の取り組み結果が確認できない。

・市役所内での内部コミュニケーションだけでなく、市民に説明し意見をもらう外部コミュニケーションの場を設けることの重要性を指摘。

・従来の環境負荷を減らす活動に加え、環境に良い影響を及ぼす活動に取り組む観点も必要である。

➡担当部

・環境マネジメントシステムのページとは別に「エコオフィスプランの取り組み状況」として掲載しているものの、ホームページの構成が見にくいいため、分かりやすい形へのリンク整理など見せ方を工夫する。

・環境に良い影響を与える活動という点については、市役所の取り組みはこれまで受け身（使用量削減など）が中心であったため、今後の参考としたい。

7 参加者【少子高齢化対策と環境問題に対する取り組みについて】

・地球温暖化や少子高齢化などの問題は数十年前から予測されていたにもかかわらず、有効な手立てが打たれてこなかったため、現在も状況が深刻化している。

・参加者の居住地域では、高齢化率が75%に達し、独居老人や障害者が多い一方、身近な店舗やスーパーが相次いで閉店し、シャッター通りや幽霊都市化している。

・市や政府に対して、未来予測に対する効果的な手立てやアイデアが本当に講じられているのかと懸念を示し、具体的な少子高齢化対策への取り組みについて聞きたい。

➡市長

・確かに少子高齢化や環境問題が数十年前から分かっていた課題であった。各国の事例を見ても子育て支援に多額の資金を投じたシンガポールや韓国などで決定的な改善が見られないように、政策の難しさがある。

・これまでの国内外の試行錯誤や蓄積された知見から、劇的な特効薬はほぼないことが分かっている。

・華々しい一発逆転の政策ではなく、宝塚市の限られた資源で市民のニーズに合った政策や、人間と環境のバランス（ウェルビーイング）を取った対策を地道に着実に進めていく。

8 参加者【家庭ごみの減量とポイ捨て防止の取り組みについて】

・他市のように、庭木の剪定ごみを細かくするチップ製造機を市が貸し出したり、回収してくれたりするような具体的な施策を出してほしい。

・過去に市が実施したコンポストのモニター参加をきっかけに、家庭の生ごみが大幅に減った経験がある。

・道端のポイ捨てごみ（プラスチックやマスクなど）が増えている現状に触れ、個人的に拾うのは人目が気になって難しいため、市がキャンペーンなどを張ることで市民が協力しやすくなる。

➡市長

・剪定ごみについて、宝塚市では緑のリサイクルセンター（西谷）への持ち込みで堆肥用チップの無料提供を行っている。チップパー（粉碎機）の貸し出しを行っている他市の事例も踏まえ、市民がより利用しやすい仕組みについて検討したい。

・コンポストの実践や家庭ごみ減量への協力など、温かいエピソードを紹介いただきありがたい。

・ポイ捨て防止についても、既存の美化運動とは異なるアプローチでのキャンペーンや取り組みについて良いアイデアとして前向きに受け止め、今後の参考としたい。

9 参加者【子育て世代の環境意識の活用とゼロカーボンシティ実現に向けた方針について】

・宝塚市には子育て世代が多く、出産を機に環境問題に強い関心を持つようになる傾向があるため、施策の推進において子育て世代を重視・巻き込むことが効果的ではないか。

・宝塚市の野心的な 2050 年ゼロカーボンシティ宣言の表明や温室効果ガス削減目標は良いが、今後の実現に向けて市がどのような分野（ごみ問題、再エネ普及など）を看板として重点的に進めていくのか。

➡市長

・自身の子育て経験から、子どもへの食事や未来への懸念を通じて環境意識が高まることに共感している、今後の環境政策においても子育て世代を巻き込んでいく視点が非常に大切である。

・ゼロカーボンシティの推進においては、財政難の状況下でも事業が止まってしまうような、税金を大量に投入する従来の方法ではなく、環境負荷の低減と経済活動が一体となって回る仕組み（経済的・環境的なエコシステム）づくりに知恵を絞っていきたい。

10 参加者【若い世代が残るまちづくりと大学誘致の可能性について】

・昼間は働き手が大阪や神戸方面に出てしまい、高齢層が中心となって昼間人口が少なくなる。

・災害時（大阪北部地震など）の帰宅困難の経験を踏まえ、最寄り駅に降りた際に安心して帰ってこられると感じられるまちづくりを希望する。

・昼間にも若い元気な人たちが地域に残っていただける環境づくりの一環として、大学などの高等教育機関の誘致ができないか。

➡市長

・若い世代の価値観が大都市での自己実現から地元での住職近接（住む場所と働く場所の近接）や落ち着いた豊かな生活を志向する方向へ世界的に変化している傾向がある。

・華々しい開発ではなく、新しい価値観を持つ若い人たちにとって本当に有益な教育機関のあり方や、通勤時間の短縮と生活の豊かさを両立する住職近接のライフスタイルという視点を大切にしながら、これからのまちづくりを考えていきたい。

・住宅都市に大学等の高等教育機関を置くこと自体は良いアイデアとしつつも、少子化の影響で全国の私立大学が定員割れに苦しんでおり（大学の募集停止など）、安易な誘致には慎重であるべき。

11 参加者【無作為抽出型による環境市民会議の開催提案について】

・関心の高い層だけでなく、無作為抽出で市民、特に若い世代に集まってもらい、環境問題を自分ごととして考えてもらう環境市民会議の開催をしてはどうか。

・高齢者は、口は出さずにお金（寄付など）を出すような形で支え、若い世代が未来の世代の視点として環境を学び、気づくための教育の場や仕組みとして前向きに検討してほしい。

➡市長

・すぐにやりますとは即答できないものの、検討項目の一つとして前向きに考えていきたい。

・従来のような形式では関心の高い人しか集まらないという課題を踏まえ、どのような形であれば効果的か、また財源の確保も含めて知恵を絞りながら検討していきたい。

12 参加者【高齢者の孤立死問題の実態と対策について】

・熱中症で入院した経験があり、温暖化対策の必要性を切実に訴えたい。少子高齢化や孤立死なども人災であり、大きな不安要素である。

・大阪府の統計等を参考にすると宝塚市内でも年間数十人の孤独死が発生していると推測され、生活困窮や社会的孤立による見過ごされた死の実態が隠されているのではないかな。

・過去の市長に対して、民間業者と提携した有料老人ホームの整備など、福祉拠点の充実による孤独死防止策を求めたが財政難等を理由に実現していない。市による実態調査と対策を強く要望する。

➡市長

・熱中症から回復されてよかったと思う。孤立死・孤独死問題は宝塚市役所としても非常に大きな重要課題である。

・市職員が現場対応に関わる人が多い現状を踏まえ、かつて大学で高齢者の孤立や子供の貧困等を研究していた専門的知見に触れ、孤立死の要因は生活困窮だけにとどまらない複雑な背景がある。

・表面上の件数だけでなく、その背景にある要因をしっかりと分析・共有しながら、市として有効な対策を考えていきたい。

13 参加者【武庫川や逆瀬川など身近な河川の環境改善と活用について】

・武庫川や逆瀬川で釣りをしたり遊んだりできた昔の豊かな環境に戻すことはできないか。

➡市長

・釣りを楽しむ環境を再び整えるには法的な条件等があり簡単ではないとしつつ、武庫川などの河川はこれまでにないがしろにされがちだったため、もっと焦点を当てていきたい。

・現在も子供たちが川で遊んでいる姿は見られるものの、さらに川をきれいにし、市民が自然に関心を持つための仕組みや仕掛けづくりについて、良いアイデアがあればぜひ教えてほしい。

14 参加者【街路樹の現状と管理に対する考え方について】

・街路樹の木陰や緑は健康や都市の景観に不可欠であると感じているが、駅前の木が伐採されたままになっていたり、市役所通り等のケヤキ並木も伐採されて景観が損なわれていたりする。一方で市役所前のケヤキは生き生きと枝葉を伸ばしているが、市長の街路樹に対する考え方を聞きたい。

➡市長

・街路樹については木陰や美しさを評価する声と、落ち葉や枝が邪魔だから切ってほしい、という声で意見が大きく分かれる。

・樹木が大きくなるほど想像以上に多額の維持管理コストがかかるため、全国の自治体が頭を悩ませている苦しい政策分野の一つである。

・考えとしては、無理に道路上に街路樹を並べるのではなく、公園や民地などの内側に立派な木を配置していく方向へのシフトを検討したい。市民からの意見を踏まえながら適切な管理・方策を考えていく。